

このまちに息づいて、
人と歴史を繋ぐ、
そんな「景観」が好きだ。

心豊かに
楽しみながら
暮らせるまち。

空が広いまち。これは私が初めて訪れた
21年前から変わらない福岡市の景観の大
きな魅力の1つ。都会でありながらも、高
い建物に視界が遮られて空を見渡せない、
ということが少ない。とても気持ちの良い
ことだと思います。そしてちよつと良いス

ケールなので、住みやすく活動しやすい。
オンとオフにメリハリをつけながら、心豊
かに生活を楽しめるまちという印象も20
年来それほど変わっていないですね。

福岡の中で
注目する景観。

来福する外国の人達に評判が良いのは大
名や今泉といった街並でしょうか。昔からそ
のまちにある日本らしい風情のお店が、世界



深町流「景観」の
楽しみ方

福岡のまちのあちろちらには、歴史的
な景観の「名残り」が見受けられます。実は
それらが、今、私が最も気になる「景観」に
は関係するんです。例えば、福岡には「城
址」はあるけれど城はない。つまり具体的
な形はないけれど、当時を想像させるものは
残っています。そういう「名残り」から「その
昔、確かにここにあった景観」を想像するこ
とが実に楽しい。鴻臚館跡なども調べるほ
ど興味をそそられます。当時、その壮大な
門は、大陸から船に乗って日本に近づいてく
る一行の目にも浮かび上がるように飛び
込んできたといえます。きつとかんりのイン
パクトだったのだろうし、外国の使節を迎
えるにふさわしい堂々たるたたずまいだっ
たに違いなし。福岡城も鴻臚館も、現在は空
想でしか「見る」ことはできない景観だけ
ど、それだけにワクワクします。

福岡は古くから
すごいまちだった

とはいえ、私も以前は、日本のメジャーな
歴史の出来事や、有名な戦国武将などにつ
いては興味を持って、自分の足もとに
重ねられてきた歴史をことさらに意識し
てみようとはしていませんでした。でも思
えば、交通アクセスが船しかなかった時代、
現在の福岡は大陸に一番近い日本だったわ
けで、さまざまな最先端の文化が海外から
上陸した地でもあった。また、あの空海は
唐で修行後、博多に逗留した時に東長寺を
建立したと伝えられています。こうして、
いろいろな歴史を知るほどに、福岡が古く
からすごいまちだったんだと再認識した
し、自分達が暮らしているまちの、またこの
まちで生きた先人達のことを考えたり、そ
の歴史が自分達と確実につながっているこ
とを、このまちに息づく景観を通して実感
することが面白くなってきました。

提案してみたい、
「空想の景観」部門

空想する楽しみ。それは人間ならではの
ものだし、だからこそそこにはインテリジ
エンスを感じます。景観賞にも「今はない
が、かつてあった景観」にスポットを当て
るような視点を新たに切り入れてほしい。ま
た先取的な気質を持つ福岡の人達が、その
先へと進む勢いは持ちつつも一方で福岡が
どついつ歴史を持ち、そのDNAを受け継
いだ我々がどうあるべきかを見つめること
で、自分達の行方を考えるヒントにもなる
と思っんです。まちを歩いていると発見で
きる「名残りの景観」。そこから「空想の景
観」を立ち上げて面白がってみると、自分
と歴史とが繋がってくる。私自身も関わっ
ている仕事などを通して、少しずつそのき
っかけを発信していけたらと思います。

福岡らしさって何だろう。
みんなで見つけていければ、
きっとますます良いまちになる。

的にも有名なブランドショップと軒を
連ねている景観は彼らにとって新鮮な
のでしょ。これらのエリアでは、新し
い施設をビル形式にするのではなく、周
囲にとけ込むような形で作る、といっ
た配慮がなされているのをよく見かけ
ますが素晴らしいことだと思います。
私個人についていえば、南公園西展望
台からの景色が好きです。住宅街、天
神、大濠公園、ドーム、そして海。福岡
の良いところが望めます。また、最
近あらためて注目しているのが「アク
ロ入福岡」です。ここ数年、ネットをチ
ェックしていると月1回位の頻度で海
外の誰かしらが「アクロ入福岡」の画
像や話題を取り上げて発信していま
す。グリーンビル、エコービル、とい
うことで興味が持たれているんですね。
これは今の時代ならではの評価とい
えますがそんなビルを十数年も前か
らスタートさせた、福岡の先取的な着
眼点が形になった建物ですから、福岡
タワーに並ぶ福岡のシンボルともいえ
る景観ではないでしょうか。

エリアの個性を
生かした景観づくり、
まちづくりを。

住吉、御供所、舞鶴港……。そんな具合に福岡
にはとてもかくたくさんさんの地区があるので、
もう少し各々の個性を明確にする景観づく
りを行ってもいいのではないかと、とも思いま
す。来福した人に分かりやすいのはもちろ
ん、そついうまちづくりを進めることで、そ
で生活する人や仕事をしている人のアイデン
ティティも違ってくるのではないでしょう。か
また福岡には歩いて楽しいというキャラクタ
ーを持つ地区もたくさんありますね。そつ
いう地区はベンチ、無料給水機や歩道などの整
備をするなど、「歩いて楽しいまち」をもつ
意識してもいいのかな、と感じます。



『FUKUOKA NOW』CEO
ニック・サーズ
Nick Szasz

カナダトロント生まれ。ビジネスマンとして東京や大阪に勤務後、21年前から福岡に居住。
“福岡で「今楽しめるモノ・コト」がわかる多言語情報誌”と銘打ったフリーペーパーの月刊誌「フクオカ・ナウ」編集長として活動する一方、福岡市の「屋台との共生のあり方研究会」の委員としても活躍中。



プロデューサー
深町 健二郎
Fukamachi Kenjiro

福岡市生まれ。企画制作会社「フリースタイル」を設立、企画プロデュースを手掛けるほか、ミュージシャン、タレントとしても活躍。2003年には映画「ROCKERS」に出演、コーディネーターも務める。現在「気ままにLB」(KBC)「トンコツTV」(NHK福岡)などに出演中。